

事業のタネシート

活動地域・団体名：公益財団法人うなんコミュニティ財団

| 事業名称 1：コミュニティコンポスト（昨年度から継続） | | |
|--|--|---|
| あらすじ | | |
| <p>家庭ごみの約4割が生ごみであり、廃棄物処理の際に水分を多く含む生ごみが熱エネルギーを下げている大きな要因となっている。</p> <p>市内で畑などを実施している市民は生ごみを家庭で処理している人も少なくないが、町部では土地もなくコンポストを実施するにも難しい市民もいる。</p> <p>これを受け、すでに市民農園を運営し地域の居場所づくりも兼ねた市民団体（社会福祉協議会とも連携）やコワーキングスペース、市内企業2箇所、地域自主組織や個人宅にてキエーロコンポストを実施。来年度以降も地域自主組織（上記以外）、市民グループ等と連携し環境教育及びコンポスト実践を行う。</p> | | |
| ストーリー | | |
| <p>田畑などがなく、生ごみをそのまま家庭ごみとして出している家庭、かつコンポストに関心がある家庭を対象に生ごみをコンポストで堆肥化するプロジェクトを実施する。</p> <p>また、並行して事業者の生ごみ排出量や当該生ごみをコンポストにするにはどれぐらいの規模のものが必要なのかなどを調査する。これらにより、令和14年度雲南圏域ごみ焼却炉建替完了までに、市民でごみについて考える機会づくりやごみを減らしていく活動を実施していく。事業者の生ごみに関しては、仮に回収するとすると法律や制度があるため、どのように実現できるのか検討を行い、雲南全体のごみ排出量を減らしていきたい。</p> <p>また、コミュニティコンポストにすることにより地域のつながりづくりの手段の一つとする。</p> | | |
| 事業の骨子 | | 現時点で想定される課題・ボトルネック |
| ①ありたい未来 | 多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなで作る | <ul style="list-style-type: none"> 適切に処理しなければ鳥獣被害が出る可能性がある 事業者から回収をする場合、行政制度の確認 |
| ②課題 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみの4割が生ごみ コンポストを実施したくてもできない人がいる 耕作放棄地、活用してほしい土地がある 体験型の環境学習の機会が必要 引きこもり状態からの回復期の人の活躍の場所がない | |
| ③なぜこの事業をやるのか（Why） | ②を解決することにより、ごみの削減、自分でできることを実施していくことでの環境への取り組み意識の向上、土地の活用ができる地域を目指す | |
| ④地域資源 | みんなの畑（仮）等実施団体、市民、ごみ | |
| ⑤商品・サービスの具体的な内容（What） | <ul style="list-style-type: none"> コンポストを設置 堆肥の提供 堆肥を使い実施している畑で活動 | |
| ⑥担い手（Who） | <ul style="list-style-type: none"> 市民農園、地域自主組織、コワーキングスペース運営者・利用者、市内事業者、市民グループ ゼロウェイストジャパン（調査やアドバイス） | 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像 |
| ⑦事業で生じる循環 | <ul style="list-style-type: none"> ごみをごみにしない 堆肥 環境学習 地域内で生きにくさを抱える人の活動の循環 | 鳥獣害対策 |
| ⑧事業で生じる成果 | <ul style="list-style-type: none"> ごみの削減、自然環境の維持 ごみや環境問題への理解、参画者の増加 回復期の人の居場所づくり、活躍の場づくり | |

事業名称 2 : 森林活用人材育成事業

あらすじ

市の総面積の約8割が森林。人口減少と少子高齢化により林業・木材産業も担い手が不足している。その影響は鳥獣被害の増加や防災・保水などの森林の公益的機能の保持の困難にもつながっている。まずは山を身近に感じ様々な担い手を増やすことが必要。

ストーリー

雲南市でも多くの人にとって山は未知の場所であり、相続のお荷物となっているのが現状です。そして他の中山間地と同様に、人口減少と少子高齢化により林業・木材産業も担い手が不足している。まずは身の回りの森林空間から、日常を少し豊かにするという視点で行動から始めることが私たちが山との関係を見つめ直し価値（環境維持、木材活用、アウトドア等々）を再び受け取ることができるきっかけとなる。そうした営みの中で、山林の管理・活用の担い手を、行政や事業体のみならず地域に暮らす住民も可能な限り担うことで、持続的に価値を生み出す山林と安心安全の暮らしをつくることを目指す。ゆくゆくは地域単位などで森林の管理も行えるような仕組みづくりに繋がりたい。

| 事業の骨子 | | 現時点で想定される課題・ボトルネック |
|-----------------------|--|---|
| ①ありたい未来 | 多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなで作る | <ul style="list-style-type: none"> ・担い手育成のための資金調達（ふるさと納税や休眠預金等活用を検討） |
| ②課題 | 山の相続人が都市部の人や不明等、管理が困難、人材不足、山の機能の低下による水災害や鳥獣被害等 | |
| ③なぜこの事業をやるのか（Why） | ②の課題解決をすることにより、森林の担い手育成と機能回復、新たな活用方法の確立を目指す。 | |
| ④地域資源 | 森林、人材育成NPO法人、森林活用に関する取り組みをする市内団体 | |
| ⑤商品・サービスの具体的な内容（What） | <ul style="list-style-type: none"> ・基金の設置による人材・担い手育成 ・実施団体による山への参画者増加の事業 | |
| ⑥担い手（Who） | <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人（情報提供・資金調達等） ・活動団体（活用機会の創出） | 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像 |
| ⑦事業で生じる循環 | <ul style="list-style-type: none"> ・山林への参画者が増え関心が高まり、継続して関わる人が増える ・山に人が入るようになることで、現状把握ができ必要な整備ができる ・担い手育成をイベントにすることで収入を得る ・森林組合と市民団体等との連携による商品開発 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域自主組織 |
| ⑧事業で生じる成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・森林への関わり方が多様になることにより、森林に入る人が増え、関心が高まる ・森林活用の担い手が増え、森林整備や維持のための活動等が進む、自然環境の維持 ・新たな商品や森林の新たな価値（新しい活用方法）が生まれる | |

事業名称3：自然と健康を大切にしたい地域の拠点（居場所）づくり／事業1との連携

あらすじ

現在家族のあり方が変化しており、子育て支援の不足や子どもの居場所が必要とされている。雲南市は自然農法を大切にしている木次乳業や食にこだわった事業者が集まる食の杜という施設があり、周辺地域にも自然と健康を大切にしている個人や事業者も多い。前述の地域課題と食を掛け合わせた居場所づくりを実施予定の団体や、地域全体で地域の人も交えた子育てをする施設を実施している企業がある。

ストーリー

核家族化が進む中、コロナ禍において働くことと子育ての両立の困難さが浮き彫りとなった。家族や地域住民と一緒に子どもを見守り支える目や拠点そのものが必要である。現在木次地区にて居場所づくりやサポート体制を整えており、来年度以降別団体が加茂地区での活動を予定している。また、規格外の地元野菜や放置果樹が廃棄されるなどの課題もある。子どもの居場所づくり等と併せて、困った際の相談先としてのサポート機能を担う役割や、地元の減農薬野菜を使った惣菜の量り売り販売などそれぞれの地区のニーズに合わせて心身の健康と環境に配慮した拠点づくりを行う。

| 事業の骨子 | | 現時点で想定される課題・ボトルネック |
|-----------------------|--|--------------------------------|
| ①ありたい未来 | 多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなで作る | 拠点整備の資金調達 |
| ②課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての頼り先の不足 ・規格外野菜が廃棄される | |
| ③なぜこの事業をやるのか（Why） | ②の課題解決により子育ての負担や喜びを分かち合い助け合う地域、また食も通じて多世代や他分野の人たちが交流できる地域を目指す。 | |
| ④地域資源 | 子育て世代、農家、事業実施団体・企業、子育て等支援の各団体、拠点、地元野菜、オーガニック食材 | |
| ⑤商品・サービスの具体的な内容（What） | <ul style="list-style-type: none"> ・保育一時預かり、イベント、放課後等一時預かり、自由に利用可能な居場所等 ・困りごとへのサポート、各団体への繋ぎ ・地元野菜を使った量り売り惣菜販売 | |
| ⑥担い手（Who） | 市内企業、市内任意団体（将来的には法人化）、市内福祉法人（連携）、地域自主組織（連携）、農家 | 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像 |
| ⑦事業で生じる循環 | 世代・分野を越えた人の交流、地域内で経済循環、ごみ削減、場所の活用 | 拠点改修ワークショップをする場合、その講師 |
| ⑧事業で生じる成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代を中心に多くの人で子育てや見守りをすることで助け合いコミュニティができる。心身の負担も減り生活しやすくなる ・子育てを理由に市外に引っ越す世帯が減少する ・野菜廃棄削減による自然環境の維持 | |